

市民と市長との対話集会（テーマ：通年観光） 直江津エリア  
主な意見交換の内容

開催日：令和5年8月17日（木）

会場：レインボーセンター 1階 多目的ホール

参加者：27人

テーマ：前半「海のまち直江津」、後半「鉄道のまち直江津」

-前半「海のまち直江津」-

（市長）

- ・8月の前半にオーストラリアへ視察に行ってきた。
- ・多くのオーストラリアの方がスキーで日本に来られているので、これから友好都市として関係を築いていくと、それが観光誘客につながる可能性があると考えている。

（参加者）

- ・事前に、市長の説明資料だけでも提供してもらえれば、我々としても、そこに対して考えられたと思う。プロジェクトのスライド資料も小さすぎて見えない。
- ・この時間を有効に使う事を考えてほしい。

（司会）

- ・ご意見として承った。

（参加者）

- ・行政主導型ではなく、実際に取組を行うのは我々なので、観光客を通年でもてなすためにどんなことができるか、みんなでアイデアを出していくべきだと思う。

（参加者）

- ・市長は食が売りだと言っているが、具体的に何が上越の売りなのか。

（市長）

- ・直江津、名立、大潟、柿崎で採れた海産物を市内で提供していければよいと思う。漁港にも観光客に訪れていただき、そこでの体験も地域の魅力になってくる。

（参加者）

- ・福島県いわき市の小名浜に「アクアマリン福島（水族博物館）」と「いわき・ら・ら・ミュウ（観光物産センター）」があり、多くの人を訪れている。海産物の食事や物販も

充実しており、上越でも、そういった機能を1か所に集めれば、集客が見込めるのではないか。

(市長)

- ・食と土産物を買ってもらえるところは作っていききたい。

(参加者)

- ・通年で人を呼べるのは、直江津地域だけだと思っている。うみがたり、D51 レールパーク、無印良品を核に、まず直江津に人を呼び、泊まってもらう環境を整え、そこから、高田、春日山につなげていくべきだと思う。

(市長)

- ・地域の祭りやうみまちアートなどもやっているが、そういった賑わいがあれば、段々と滞在時間が長くなっていく。そういう仕掛けを皆さんと作っていききたい。

(参加者)

- ・直江津屋台会館に保管している屋台を、通年で見ることができ、そこで土産を買えるとよい。
- ・海産物を売りにするのであれば、日本海側の他の地域との差別化を図る必要がある。

(市長)

- ・他の地域との違いということであれば、豪雪地帯だったということと、この地に暮らす方々が雁木町家を作ってその豪雪に協力して耐えてきたことが挙げられる。

(参加者)

- ・上越市の海は、柿崎から名立までと長く、それぞれで同じようなことをやっても、力が分散してしまい意味がないと思っている。
- ・レジャーとして楽しむ海にするためには、予算をしっかりつけて、日本で一番素敵な海を作るぐらいの覚悟でないと、観光地として確立されることは、かなり難しいと思う。

(市長)

- ・13区もあるが、まずは集客しやすい直江津・高田・春日山に集中し、どこに投資をしていくかを考えていかなければいけない。
- ・皆さんから頑張ってもらいたくために、各地域で独自予算を使って、それぞれの地区で魅力を発信していきましょう、ということで考えている。

(参加者)

- ・例えば海浜公園でのイベントを仕掛けやすいように、市から配慮してもらうなど、協力をお願いしたい。

(参加者)

- ・食事場所、休憩場所として、屋台会館の活用方法をもう少し考えてほしい。

(参加者)

- ・南魚沼市の「本気井」のような取組や、市内を周遊できるバスがあるとよい。

(参加者)

- ・アイディアイベントであったり、井であったり、直江津地域としてのブランディングに取り組んで欲しい。

(市長)

- ・私の印象では、地元の米や野菜などを、みんな安売りしすぎていると思っている。計画的にみんなで協力をしてやっていけば、絶対に売れると思う。
- ・そういったことを進めていくためには、食事ができる場所や周遊バス、宿泊する場所といった整備も必要。
- ・また、何より、地域の歴史文化を土台にして作っていかねばいけないと思っており、私も含めて、新しい事業に覚悟を持って進んでいかねばいけない。本気でやる仲間がたくさん集まってくることを願っている。

-後半「鉄道のまち直江津」-

(参加者)

- ・鉄道博物館について市長の考えを聞きたい。

(参加者)

- ・鉄道博物館について、どの程度の規模で、どのくらいの集客があって、向こう何年間で人の魅力をひきつけるものを考えているか。

(市長)

- ・まだ何も決まっていないので、自分の中の考えだが、土地のことを考えると駅の南側、どのくらいの規模かという、少し鉄道に興味がある人や、ファミリー層が体験できるものがあれば一番よいと思っている。

**(参加者)**

- ・くびき野レールパークは、10月の直江津の鉄道まつりのときにコラボさせてもらっているが、直江津と頸城の距離が離れすぎている。
- ・コッペル号は野ざらしで車軸が曲がっている。直すと一台買えるくらいのお金がかかる。保存団体も高齢化で何とかイベントをやっている状況。
- ・本来ならコッペル号は頸城区にあった方がよいが、今後を考えると直江津にあった方がよい。上越市のやる気だけだと思う。

**(市長)**

- ・軽便鉄道は、歴史の積み重ねもあり、通年観光の中で最大限生かせる一つの資源だと思っている。
- ・軽便鉄道は観光資源としての活用が期待でき、バス利用の増加にもつながるといふことでもあるので、頸城自動車に協力を仰いでいきたいと思っている。

**(参加者)**

- ・鉄道をいかした誘客となると、車両の整備を考える人が多いが、映画のワンシーンのように、線路を歩いたり、枕木に寝そべっている写真を撮ってみたいと考えている人もいると思う。

**(市長)**

- ・枕木に寝そべる体験など独特な体験は私たちも求めているので、えちごトキめき鉄道からご協力いただきながら、その条件を整えるために取り組んでいきたいと思う。

**(参加者)**

- ・市長が考える誘客ターゲットは。

**(市長)**

- ・この土地は雪が降り、除雪車もある。雪に興味を示す、オーストラリアをはじめとした欧米の方々が大きな集客層になってくると思う。

**(参加者)**

- ・京浜急行電鉄では、三浦半島のマグロきっぷ、横須賀のグルメきっぷ、逗子葉山の女子旅きっぷなどを発売している。
- ・妙高はねうまライン、日本海ひすいラインの沿線で、海産物の食事券とトキ鉄のフリー切符、往復券とでコラボできないか。

**(市長)**

- ・様々なわくわくするような切符をたくさん作れる可能性があるのではないかと考えている。

**(参加者)**

- ・関川土手の広い土地を有効活用して、イベントなどができないか。
- ・長野県や群馬県の方が、夏にレジャーでバナナボートやクルーザーを楽しんでいるが、そういう客層と連携できないか。

**(市長)**

- ・香川県の商店街では、イベント機材の貸し出しを無料にしたところ、いろいろな方が来てイベントをやるようになったという事例がある。
- ・ヒントをいただいたので、イベント支援については私たちも考えていきたい。

**(参加者)**

- ・情報発信が非常に重要であると考えている。
- ・観光客の方に、うみがたりのイルカショーや、D51の汽笛が鳴る時間をよく聞かれる。上越市の情報を一元的に把握できるアプリなどがあるとよい。

**(市長)**

- ・各国によって利用される SNS が違う。どういうお客様を呼びたいかによって、情報発信のアプリも変えていかなければいけない。
- ・来年度から、妙高市と糸魚川市と連携して同じシステムを導入し、財務と文書管理の分野のデジタル化を目指している。スマートフォン社会ということを前提にしながら、最先端の技術を上手く活用していきたいと思う。

**(参加者)**

- ・北陸新幹線の延伸に向けて、関西エリアではこういったところにプロモーションをかけているのか。

**(魅力創造課長)**

- ・関西のプロモーションは、北陸新幹線の沿線市や、北アルプス日本海広域観光連携会議の皆さんとともに、大阪などの駅広告などを中心としてプロモーションをかけている。
- ・集客プロモーションパートナーシップを各都市と結んでおり、お互いのパンフレットを置き合うとか、ポスターを貼り合うといった形でPRしている。

(参加者)

- ・北陸新幹線延伸で「かがやき」が停車すると、関西から集客があると思うが、市長としてはどういう意見をお持ちか。

(市長)

- ・「かがやき」を上越妙高駅に停めて欲しいということは、北陸新幹線開業時から要望をしている。停めるためには、乗客から降りてもらうための魅力ある観光コンテンツが必要だと思っている。

(参加者)

- ・トキ鉄だけが頑張っていて、市から鉄道博物館の話が全くないのは残念に感じる。
- ・自分たちの町を元気づけようという気持ちになってる人がどれだけいるか。まずは、市民の観光に対するやる気をもっと掘り起こしてもらわないといけない。

(市長)

- ・今皆さんから出た意見の中で、良いと思ったアイデア等は採用していきたい。

(参加者)

- ・直江津はもともと流通拠点として、1000年以上続いてきた町で、観光については、興味を持つ人が勝手に来てくれているだけの町。
- ・地元の人たちが地域の魅力に気づいておらず、観光資源の割合に対して、観光をやらなくてはいけないという意識が極端に低い地域である。
- ・本当に観光でやっていくには、この町に住んでいる人の意識を掘り起こすことがまず最優先だと思う。

(市長)

- ・私たちとしては、まずは大枠の計画について、10月ぐらいに何とか皆さんにお見せできればということで、目標を立てながら進めている。
- ・そのために、こういった会を開いており、今後も意見交換を行いながらブラッシュアップしていけたらと思っている。
- ・皆さんの協力をこれからもよろしくお願ひしたい。